

Syllabus ID	syl.-132332		
Subject ID	sub-132007700		
更新履歴	20130315新規		
授業科目名	留学生日本語 Japanese for International Students		
担当教員名	高澤 啓子 Keiko TAKASAWA		
対象クラス	機械工学科・電気電子工学科・制御情報工学科・物質工学科5年生 留学生		
単位数	1履修単位		
必修/選択	選択		
開講時期	通年		
授業区分	語学		
授業形態	講義		
実施場所	共通棟2F 留学生選択教室		
<b>授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)</b>			
<p>長い留学生活を送るためには「生活に必要な日本語」「人間関係をつくるために必要な日本語」「学業に必要な日本語」がどれも必要となる。いまや高い知識と能力、技術があれば、日本人も外国人も同じ条件で進学・就職が可能な「グローバル人材時代」となっている中で、留学生にはより高い日本語能力が求められる。</p> <p>上級レベルになり表現力がつくと、微妙なニュアンスを伝えるより豊かな表現や使い分けが要求されるようになる。上級に至っても誤用が多い文法項目を見直し、それぞれの立場や状況で期待されるコミュニケーションが持てるようになることを目指し、文法上・用法上のルールについて考え、場面に応じた使い方とふさわしい表現を学ぶ。</p> <p>前期の初めでは、日本の大学に編入学する際の進学と奨学金のための面接練習をする。</p>			
<b>準備学習(この授業を受講するとき前提となる知識)</b>			
日本語能力試験N2～N1レベル程度の日本語能力			
学習・教育目標	Weight	目標	説明
		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
	◎	D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
D 日本語による表現能力、コミュニケーション能力を養い、より適切な使い方が出来るようになること			
学習・教育目標の達成度検査	<ol style="list-style-type: none"> <li>該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験をもって行う。</li> <li>プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格をもって当該する学習・教育目標の達成とする。</li> <li>目標達成度試験の実施要領は別に定める。</li> </ol>		
<b>授業目標</b>			
自分の立場、話す相手、周囲の状況に応じてふさわしい表現が選べる。微妙なニュアンスや気持ちを伝えることが出来る。知識として得た用語と表現を使用して実際にコミュニケーションが出来る。「日本(人・社会)」という異文化を理解しカルチャーショックを克服出来る。			
授業計画 (プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)			
回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	授業概要、評価基準等の説明。地震と防災について。	
第2回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第3回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第4回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第5回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第6回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第7回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第8回	前期中間試験		×

第9回	自動詞・他動詞	ウォームアップ	
第10回	自動詞・他動詞	形と意味	
第11回	自動詞・他動詞	機能	
第12回	自動詞・他動詞	使い方	
第13回	自動詞・他動詞	慣用表現	
第14回	自動詞・他動詞	形が似ている動詞	
第15回	自動詞・他動詞	総合練習	
第16回	前期末試験		
第17回	テーマ学習	高専祭参加	×
第18回	後期オリエンテーション	教育目標、評価基準、スケジュール等の説明	
第19回	テーマ学習	高専祭参加	
第20回	テーマ学習	高専祭参加	
第21回	テーマ学習	高専祭参加	
第22回	使役	形と意味	
第23回	使役	機能	
第24回	使役	使い方	
第25回	後期中間試験		×
第26回	使役	発展	
第27回	使役	総合練習	
第28回	受身	形と意味	
第29回	受身	機能	
第30回	受身	使い方	
第31回	受身	発展	
第32回	受身	総合練習	
第33回	学年末試験		
第34回	総まとめ	試験解答解説、評価説明等	×

### 課題

1. ①沼津国際交流協会にほんごスピーチコンテスト出場、②自由テーマの作文提出のうちいずれか

### 評価方法と基準

#### 評価方法:

試験、課題、授業に臨む姿勢等を総合的に評価

#### 評価基準:

前期・後期(試験50%, 課題・提出物30%, 出席・授業態度20%)

学年末評価(前期40%, 後期40%, 課題20%)

教科書等	安藤節子・小川誉子美著、日本語文法演習『自動詞・他動詞、使役、受身』—ボイス—、(スリーエーネットワーク)¥1,300+税、 『進学と奨学金応募のための面接設問集(過去の沼津高専留学生在が面接時に受けた質問)』 その他必要に応じて教員が用意した資料
先修科目	中・上級日本語、日本事情、英語
関連サイトのURL	
授業アンケートへの対応	習熟度に合わせシラバス・課題を変更する
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。